

ワキの発生に備えた 管理で初期生育確保

長岡農業普及指導センター

稲作情報 No.2

代表電話：0258-38-2557

E-mail：ngt111440@pref.niigata.lg.jp

1. 気象条件を考慮した作業計画を立て、移植後の低温による初期生育の遅れを回避する。
2. ケイ酸を含む土づくり資材や堆肥を施用する。
3. 植深は2～3cmの浅植にする。
4. 前年秋にひこばえが多かったほ場では、ワキ対策を行う。
5. 移植後の活着を早めるため、移植前追肥を行う。

今年の田植え後もワキに注意！

○昨秋のひこばえなどの春に未分解の有機物のすき込みが多く、高温・多照となった場合はワキ（有機物等の分解で発生するガス）が多発生する恐れがあります。

○ワキが発生した場合は根腐れを防ぐため、水の更新や一時的な落水及び夜間落水等ガス抜きを行いましょう。

○水稲除草剤の散布方法により

① 初中期一発剤のみの場合

- ・ 除草剤の処理層が壊れないよう田面が乾かない程度のガス抜きを行う。
(ただし散布後7日間は止め水。)

② 2回以上の体系処理の場合(例：初期+初中期・初期+中期)

- ・ 2回目の除草剤散布前に軽く中干しを行いガス抜きを行う。

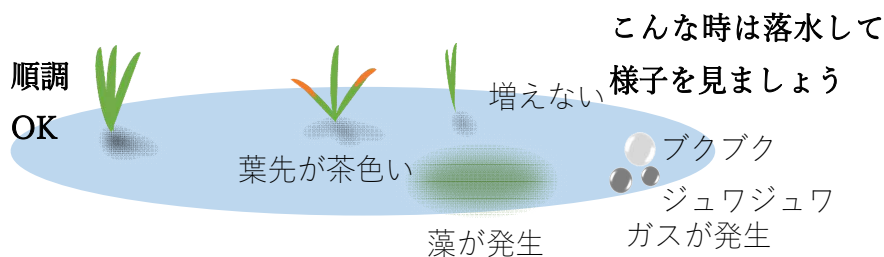


図1 水の更新や落水実施のサイン

1. 移植前の追肥で初期生育確保

- (1) 苗の老化防止と移植後の活着を早めるため、移植前4～5日頃、窒素成分約1～2g/箱を追肥する。特に、老化苗は2g/箱を追肥する。ただし、軟弱徒長苗の場合は障害が発生する可能性があるため追肥は控える。
- (2) 液肥については使用上の注意事項をよく読んで使用する。

老化苗でも移植前追肥を行うことで茎数が確保される。

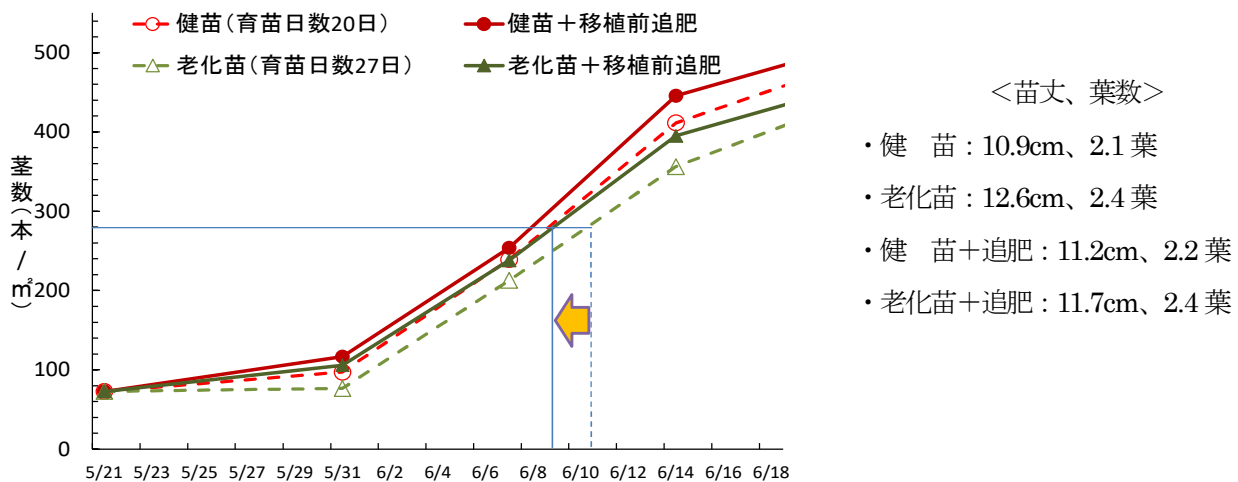


図1 分けつ期の茎数の推移
(H25、26年、作研セ)

2. 苗の植付け本数は1株あたり3～4本、 栽植密度は、コシヒカリで50株/坪が基準

- (1) 田植え時の苗の植付け本数は、3～4本/株が適切です。

植付け本数が多いと…

過繁茂により茎が細く籾数が過剰となり、倒伏や品質低下を生じやすくなる。

- (2) 植付けの深さは、2～3cmとします。
深植えは、分けつの発生が抑制され、初期生育が劣り、茎数が不足気味になります。
- (3) 栽植密度は、表1を基準に、品種、田植え時期、土壤の肥沃度により調節しましょう。
※苗取量・植深・栽植密度を確認しましょう。

表1 品種別の栽植密度のめやす

こしいぶき	コシヒカリ
60～70株/坪	50株/坪

- ※ 穂数の確保しにくい中山間地や冷水地帯では、疎植栽培は避けましょう。
- ※ 生育過剰が懸念される平坦地の肥沃なほ場では、基肥窒素の減肥を行いましょう。

(4) 田植えが極端に遅れる場合は、生育不足が懸念されるため、栽植密度を増やして茎数の早期確保に努めましょう。

また、田植え時期を遅らせると生長期間が短くなるため、基肥は1～2割減肥しましょう。

(5) 全量基肥肥料のプラスチック被膜殻の河川への流出を防ぐため、代かきは浅水で行い、田植え前の強制落水はやめましょう。

3. 活着後は浅水管理で分けつ促進

(1) 田植え後は水温が高いほど活着が早まるので、漏水を防止して水温の上昇に努めましょう。

(2) 田植え後活着するまでは、湛水深は3～4cmを基本としましょう。低温や強風の場合は5cm程度のやや深水にして、植え傷みを回避しましょう。

(3) 活着後は、2cm程度のやや浅水（田面の高いところが隠れる程度）にして水温の上昇を図り、分けつの早期発生を促しましょう。

(4) 水を更新する場合は早朝にかん水し、日中は止水して水温を高めましょう。

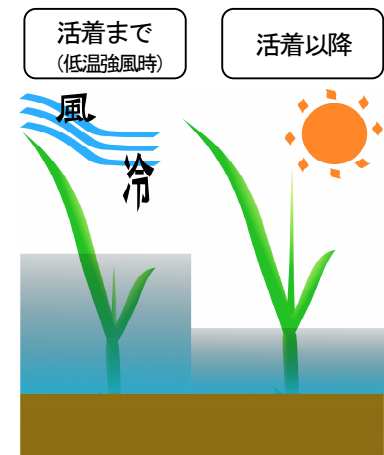


図2 保温的水管理のイメージ

4. 除草剤は適正に使用

除草剤は、以下の点に注意して使用しましょう。

- (1) 除草剤は一発処理剤の使用を基本とする。
- (2) 初期除草剤を使用する場合は河川などへの流入を防止するため、田植え前処理を避け、田植え時又は田植え後に使用する。
- (3) 処理後7日間は止水とし、落水やかけ流しはしない（厳守）。
- (4) 処理後4～5日間は湛水状態を保つ（厳守）。

<除草の効果を高めるためのポイント>

- 代かきは、できるだけ田植え時期に近づける。
- 田面の均平化を図り、田面を露出させない。
- 散布前に畦畔や排水溝を点検し、漏水を防止する。
- 散布ムラがないよう均一に散布する。

5. いもち病防除

- (1) いもち病に弱い品種は、箱施用剤等による予防防除を実施しましょう。
- (2) コシヒカリBLでも、いもち病の多発生地においては、育苗箱施用剤等による葉いもち防除を必ず実施しましょう。
- (3) 補植苗は、葉いもちの伝染源になるので、補植が終わったら直ちに除去しましょう。

<農薬使用の注意事項>

- 農薬を使用する際は使用方法、注意事項を必ず確認し、自己の責任において使用する。
- 農薬散布時は周辺への飛散、使用者自身の安全に十分注意する。
- 農薬使用後は使用農薬、濃度、使用量を防除履歴として記録、保管する。

6. 土づくり、本田準備

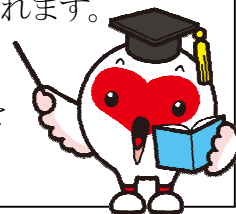
- (1) 耕深（作土深）を確保すると、根の分布範囲が広がって水分やケイ酸が吸収されやすくなり、フェーン等異常気象への対策として有効です。
- (2) 作業のはじめに、ほ場の一部を耕うんし、ものさし等で耕深を確認しましょう。
- (3) 耕うん時のトラクターはPTO回転540rpm・車速2～3kmを目安に行いましょう。
- (4) 耕深が目標（15cm）に届いていなくても、現状の1～2cm深くなるように設定し直しましょう。
- (5) 生育の均一化や除草剤の効果安定のため、ほ場の均平に努めましょう。

増収や高温時の品質低下対策にケイ酸が有効です

ケイ酸を施用することで、水稻の受光態勢の向上による増収効果が期待されます。

また、高温登熟時の玄米品質の低下に有効です。

県内のほとんどの水田ではケイ酸が不足していますので、ケイ酸質資材を施用しましょう。



「春の農作業安全運動」を実施中です。（令和8年4月1日～5月31日）

見直そう！ 作業手順と安全意識

作業前の周囲の安全確認と、ゆとりある作業を実施しましょう。